

園長だより

No. 23

2025年10月24日

園長 澄川忠男

★「きごうせっち」という言葉を知りました！

今週の月曜日と火曜日、三重県に出張でした。出張先で久しぶりに会った友人（私より10歳以上年下の兵庫県の中学校教頭）と夜と一緒に飲んでいた時、「きごうせっち」という言葉をその友人が教えてくれました。

私は知らない言葉だったので、最初は「きごうせっち」という音だけを聞いて、それに当てはまる漢字さえ思い浮かびませんでした。お恥ずかしい限りです。「どんな漢字？」と尋ねると、教えてくれました。「**記号接地**」と書くそうです。漢字を聞いてもさっぱり意味が分かりません。正直に「わからん、知らんから教えて！」とお願いすると教えてくれました。

もともとは人工知能（AI）の用語だそうです。

「**言葉や記号と、実世界にある事物の意味を結びつけること**」と教えてくれました。それを聞いてもよくわかりません。友人がさらに教えてくれました。

チャットGPTに「リンゴとは何か？」と問うと、インターネット上にある膨大な情報から「リンゴ」に当てはまるものを集め、組み合わせ、答えを出します。しかし、それら情報の中身を理解しているわけではなく、考えようともせずに、文字を並べているだけだということです。意味も分からず集めて加工してアウトプット（出力）しているだけということです。

「確かに！」と納得しました。

では、「**言葉や記号と、実世界にある事物の意味を結びつけること**」とはどんな意味なのかと問いかけるとさらに教えてくれました。

『**身体を使った生活経験をもとに、言葉の意味を理解していること**』ということです。

つまり

「リンゴ」と聞くと、

- ・色や形
- ・甘酸っぱいにおいや味
- ・シャリとした食感

これらが思い浮かぶこと

だそうです！



まさに『**うちの幼稚園でやってることやん！**』と友人に話しました。話しながら、確かにAI（チャットGPT）では教えられないことだなと思いました。

その後、彼と話していくうちに、第一幼稚園のような認定こども園だけでなく、小学校でも中学校でも大人になっても「記号接地」は行われていることや、年齢が低いほどその割合が高いと考えました。そして、私たち第一幼稚園では、様々な経験をさせたり、本物に触れさせたりすることを、今まで同様、大切にしなければいけないなという思いを強くしました。

もちろん、**それぞれのご家庭でも、知らず知らずのうちに（無意識に）、とてもたくさんの機会**で「**記号接地**」は行われているのです。ちょっと意識してみるとおもしろいと思います。

相手がだれであれ、自分が63歳になっても「知る！学ぶ！」って楽しいですね。私の感動体験の話に付き合っていたいただき恐縮です。これからも、**死ぬまで『好奇心』をもって不思議がったり面白がったりしていこう**と思います。